

令和6年度

市民と議会のつどい
～AYAまちトーク～

開催日 令和6年5月24日（金）、25日（土）

開催場所 あやべ・日東精工アリーナ研修室

綾部市議会

綾部市議会では、市民に開かれた議会を目指し、平成23年（2011年）より議会基本条例に基づき市民と議会のつどい（議会報告会）を開催しています。

市民の皆様の日頃のお声をお聞かせいただき、市政への要望、課題を把握し、議会審議等に活かしていくことを目的に開催しています。

今年度は広報広聴委員会が中心となり、テーマを設けず市民の皆様との情報交換や意見交換をメインに5月24日（金）の夜と25日（土）の午前に開催し、ワークショップ形式でフリートークを行いました。

グループワークの中での多岐にわたるご意見や質問等については、必要に応じて担当課に確認を行い、市議会として回答を取りまとめましたので、ご報告させていただきます。

令和6年7月

綾 部 市 議 会

目 次

◇議会・議員について	1
◇まちづくりについて.....	3
◇公共交通について.....	4
◇有機フッ素化合物（P F A S）について.....	5
◇ごみマナーについて.....	6
◇子どもの医療費について.....	6
◇認知症予防について.....	7
◇西部福祉施設について.....	7
◇森林整備について.....	7
◇アスベストについて.....	8
◇消防団について.....	9
◇学校について.....	9
◇上下水道料金について.....	9
◇地域の課題について.....	10

注記 文章中の記号は下記のとおりです。

○：市民の方からのご意見・ご質問

➡：議会からの回答

◇議会・議員について

○ 定数についてどう思っているか。福知山は市議選や市長選に若手が出てきて盛り上がっているが、そういう様子をどう見ているか。議員になりたい人はいると思うが、生活が成り立たない報酬。人生かけて選挙に出ても落選というリスクもある。定年後に名誉職として議員になるのではなく、議員定数を減らしてでも若い人が出られるような仕組みにした方がいいのではないか。議会を傍聴しても、発言しない議員、何を発言しているのか分からない議員も多い。「面白いよね！市議会議員」となるようにすべき。チャレンジできる議員を増やすべきではないか。

➡ **議員定数については議会内で議論しています。現在の報酬では子育て世代の議員は厳しいとの声もあります。「人数を減らして報酬を上げるべき」と、言ってもらえる市民がどれくらいあるかという点もありますし、議員の報酬額は条例で規定されています。最終的には、議会で議決をして定めますが、「お手盛り」とならないよう審議会に諮ることになっており、定数を削減したら必ず増額になるというものでもありません。2つの常任委員会に分かれて審査するため、人数を減らしてしまうことはどうなのか、また、人数を減らすと議員のいない地域も増え、地域の声をリアルに聞く議員が減るといったところもあります。いただいた意見を他の議員にも伝えます。一つの貴重なご意見として受け止めます。**

その後5月30日に、議会活性化特別委員会を開催し、議員定数の見直しについて議論しました。結論としては、委員長を除く17人のうち10人が「現状維持」、7人が「削減」の意思を示し、委員会の方向性は「現状維持」の結論となりました。「現状維持」の意見としては、削減すると地域の声が届きにくくなる、議会でチェックする目は多い方がよい、現状のままで議員の質を上げ活動の「見える化」を進めるべき、様々な課題が山積みする中で市の未来のために議員は一人でも多い方がよい、という意見があり、「削減」の意見としては、通信技術の発達など市民とつながる手段は様々あり問題はない、入り口を狭くすることで議員の質を上げることができる、という意見がありました。

○ 市議会だより（2024年5月発行No. 145）をみると、「市長から提案された議案51件、議会から提案された議案2件を採決しました」とある。圧倒的に市からの提案が多いが、こういうものなのか。

➡ **議会と市長という二代表機関には、市民の負託に答えるためそれぞれ異なる特質を生かし、市民の意思を市政に的確に反映するために切磋琢磨し最良の決定をなす責任が課せられています。その一つが市民本位の立場から執行機関による適正な市政運営が行われているかを監視し評価することです。市長から提案された議案をチェックすることは議会の活動原則の大事な柱の一つです。市民に開かれ、身近で信頼される議会を目指し、市民との共同によるまちづくりを引き続き進めてまいります。**

- 市民の要望は、議員としてどうヒアリングしているか。市民が言わないとわからないということか。
- ➡ **市民から直接要望を届けていただいたり、日頃の議員活動の中で、様々な要望や提案を聞くことが多いです。その内容をベースに、議員の思いをのせる場合や他市と比較して議論や提案をすることもあります。市民の声を聞くことは議員活動の原点です。様々な場所での意見交換等が行政に対する提案のヒントとなることもあります。**
- 議員は地区代表という側面がある。議員がいない地域は声が届きにくいということがあると思う。自治会長から要望などを上げるなどいろいろな方法があるが、どうしているか。住んでいる以外の地区だと動きにくいところがあるか。
- ➡ **自治会からもそれぞれに要望を上げられています。市民が直接、担当課へ行っても市は対応していただけます。地区から推されている議員もいますが、議員が居住する地区の課題等に詳しい点や地元の人にとって身近な存在であることから、居住地区の方々から頼られることが多いことは事実です。居住している地域以外のことについても議員は対応しますので、議員の空白地でもし困りごとがあれば相談いただきたい。市議会のホームページに各議員の連絡先は公開されています。**
- 村部では議員がいないと困るかもしれないが、旧町内だと市役所も近く、自治会もあり、議員がいてもいなくてもあまり関係がない。村型選挙なので、地元の地区のことをメインにしないといけない、というジレンマがあるのではないかな。それは一つの欠点だと思う。オール綾部でやっていくというところを出していくことが大事だ。
- 国会議員は頑張ってる人もいるが、議員になったことがゴールと見受けられる人もいる。綾部市でも議員になってそこがゴールなのか、頑張ってるのか。頑張ってる議員が多いと思うが、選挙では公約をいろいろ言っているが、当選後の活動では公約を掲げてやるのが大事だ。
- 議員と普段出会う機会がなかなか一般市民にはない。議員の方は市民の声を聞いている意識でやっていると思うが、一般市民とのギャップはどうしても生まれていると思う。この会に参加するのも予約フォームから予約して参加するのもハードルがある。少し無茶な意見だが、議員の方は、イベントに顔をだす方も多いので、参加される時に名札をつけてほしい。そうすれば、議員の顔を知らない人からもわかり、声をかけられると思う。議員にとっても覚えてもらえる。
- 声を上げられる市民は良いが、声を上げにくい市民の方が多いと思う。声を上げにくい市民の声をいかに取り上げていくか、議員として、もっともっと情報収集して頂きたい。
- ➡ **今回、一般市民を対象とした公募による市民と議会のつどいを初めて開催しましたが、市民の方から生の声を聞かせていただくことができました。このように、市民の方の困り事などをお聞きする機会を増やしたり、SNSなどを活用し、気軽に声が聞ける方法も取り入れる必要を感じましたので、市議会として検討を進めてま**

いります。

- 今日のような市民と議会のつどいでは、若い世代の声を聞くためにも保育ルームの用意はあるのか。
- ➡ **子育て中の若い世代にも参加していただけるよう保育ルーム、また、要約筆記・手話通訳の準備もしていました。**
- 行政や保育園・幼稚園等との関係が薄く、困りごとがないと市役所にも行かないので、市民と議会のつどい(A Y Aまちトーク)のように住民の声を聞くことは大切だと思う。

◇まちづくりについて

- まちおこしの観点が大事。一番のまちおこしは、綾部高校が甲子園に出ることだと思う。スポーツをする環境を整備することが重要。災害で使えなくなった第二市民グラウンドの再生もしくは、代替地の整備が大事ではないか。
- ➡ **第二市民グラウンドは、過去に水害で被災し改修工事を行ったが、再度、水害で土砂が流れ込み被災しました。議会からも再整備の提案が複数出ていましたが、水害への対応が困難なため、使用を停止している状態です。**
- 高津は規制があって住宅が建てられないのか。
- ➡ **今年3月に策定した都市計画マスタープランで、高津周辺は沿道サービスゾーンになっており、都市機能の充実を目標にまず農地の宅地化を進めて行く予定となっています。**
- 人口減少・消滅自治体などの報道があった。根本的な問題は東京一極集中にあり、地方が疲弊している。地域格差については国が責任を持つべき。議会からも国に対してもっと物申してほしい。その上で特化した政策の実施を望む。子育て支援と教育に重点を置いた施策を、地域経済や産業振興とセットで取り組んでほしい。
- 人口減少が一番の課題。抜本的改革として、子育て支援での多子世帯への支援をしていくことも必要。また、移住してきた方への支援も必要。綾部は人と人との繋がりが強いので、良い場所と思ってもらえるはず。
- 綾部は小規模の学校を維持していたり、自校式の給食など誇るべきことがある。本市の魅力を再発見することが大事。
- 若者に魅力的な町にみせる事が大事だ。上林小中一貫校、ふるさと教育などを評価している。他にも、綾部の良いところがあるので上手くアピールすることが大切。経済が回るところに人は集まる。来綾のきっかけをつくることで、遠くからでも人は来てくれる。綾部は都市部と違い、一からつくっていく楽しみがある。
- 税金の使い方については何が必要かをもう少し考えて使ってほしいと思う。若者が集まるような取組をして欲しい。
- 今と違って昔は綾部も大変にぎやかだった。昔を取り戻すために、このようなミーティングで話し合っていくことが大切だと感じた。

- バラ園の来園者数は。
- ➡ **近年は約20万人の来園があり、令和6年5月2日に来園者が150万人を突破しセレモニーが実施されました。**
- 小学生の子どもが図書館、スイミング（水夢）も利用している。市外からも集まる場所になればまちの活性化にもつながると思う。
- あやっこ広場は屋内施設なので雨天時はありがたい。もっと広げればうれしい。
- あやテラスは賑わっているようだが、あやっこ広場の市外の利用状況はどうか。効果が大きいなら、そのような施設をたくさん作ることで、子どもたちが増えるきっかけになると思う。新しい公園（新都市公園）にも期待している。人口消滅都市から綾部が外れていてありがたいが、福知山市はさらに低い数字だった。子育て世代が集まるようなまちづくりをしてほしい。
- 並松の新都市公園のイメージが沸いてこない。情報発信があまりできていないのではないか。
- 天文館パオのイベントは手作り感があり、子どもも喜んでいるが、もう少し予算をかけて事業（工作教室）の充実を。
- 綾部駅は舞鶴、福知山へ行く要の駅。それが無人駅と言われるようではいけない。人の往来があろうがなかろうが良いものを建造してもらいたい。

◇公共交通について

- 公共交通施策に関する提言書（以下「提言書」という。）を提出されているが、公共交通の課題は本当に綾部市にとって解決しないといけない問題なのでしょうか。
- ➡ **あやバスの運営費が年間1億9千万円程度です。それに対し、運賃収入は約3千4百万円となっており、残りを市の負担と府の補助金で賄っている状況です。人口減少が進んでいく中であやバスを無くすという議論でなく、地域のデマンド交通を充実させることで、あやバスの費用負担を軽減しつつ利便性の高い交通を実現していくことが必要と考え、市議会で合意を得て今回の提言をさせていただきました。**
- このドア to ドアの導入について、あやバスになる前だったと思うが、自宅からタクシーを呼んで利用する、というサービスがあった。提言書は、そのサービスと何が違うのか、明確にされた方が良くと思う、
- ➡ **平成17年4月1日から平成24年12月24日まで、あやバスは、定時定路線と予約型の両方で運行していました。予約型が運行されていた路線は、上林線の市野瀬から大町バスターミナル、於身から大町バスターミナルの区間、西坂線、篠田桜が丘線、黒谷西八田線です。この場合も、ドア to ドアではなく、定時のバス停で乗降し、予約人数によって、タクシーかジャンボタクシーを配車していました。運行は、京丹タクシーに委託していました。**
- デマンド交通の成功例はあるのか。

➡ 長野県安曇野市はタクシー事業者が輪番制で地域業者と協力して、1回300円でA地域からB地域まで移動を実施されています。バス停が細かくあって200m程の間隔で、乗合タクシーのように8人まで乗車可能です。岡山県総社市がこの安曇野市を参考に事業構築されています。成功しているところもあれば失敗しているところもあるのが現状です。市議会としては、デマンド交通を利用して市民の移動手段を確保したいと思っています。

- 商店街でお店を営んでいる。提言書を拝見した。買い物に来ていただく方は、バス停から買い物先のお店まで距離がある問題もある。自分たちで送迎も取り組んでいるが、事故の危険や人手もいるので、ドア to ドアの新交通はありがたい。
- 親が80歳以上になり、免許返納後の生活が大変だ。あやべ福祉フロンティアを頼んでも高齢の運転手がボランティア精神で来られている。若い世代が考えていけないといけない。暮らしやすいまちづくりを目指すとの議員もおっしゃっているので、住みやすいまちを議員の皆さんに実現して頂けるようお願いしたい。
- あやバスの運転マナーが悪い。中学生が横断歩道前で自転車を降りて待っているところを停車せず走行している。制限速度を守っておらず、特に最終便は制限速度を守っていない。
- あやバスの本数が減っているのが気になる。乗りたい人が困るので何とか維持をお願いしたい。
- 交通の便について、都会ではすぐに電車などがあるので、車はいらないと感じていたが、綾部では電車が一時間に一本程度しかなく、車が必要。JRの複線化も進まない中、運転免許を返納した際に、移動手段の確保が心配。また、JR綾部駅の駅員が減少しており、特急券の販売が自動販売機のみとなった。特急券や切符が買えなくて、乗車に間に合わなかったら、購入せずに乗車して、車内や到着駅で支払うようにしている。

◇有機フッ素化合物（PFAS）について

- 犀川で有機フッ素化合物（PFAS）が検出された。家族が野菜を作り、食べている。勉強会で健康被害がある物質だと知った。体内に蓄積される物質とのことで心配。法律がないということだが、土壌に蓄積されて、そこで育った野菜を食べ続けて大丈夫なのか。自分は良いが、子どもや孫が心配。風化しつつあるので、なんとかしてもらいたい。安心して住めるようにしてほしい。
- 去年9月、暫定基準値を超える有機フッ素化合物（PFAS）が、物部町の産廃業者から垂れ流しになっていることが判明した。一部農家は直売分を売らず自主規制している。米や農作物が心配である。流域には物部保育園もあり、保護者の要請で園庭での野菜づくりをやめ、プランターで野菜づくりをしている状況である。行政は調査をしない、具体的な対策をとらないが、きっちりした調査をして流域住民が安心して生活できるようにしてほしい。垂れ流しを止めてほしい。

➡ 昨年9月に報道された後、市議会にも説明がありました。現在、規制する法律がないのは事実で、国として基準の設定等に向けて検討されています。市議会では、昨年の10月には「有機フッ素化合物対策の推進を求める意見書」を国へ提出しました。また、北部5市議会の議長による国や国会議員への要望の際にも、有機フッ素化合物対策についても要望を行いました。法整備がされていないので市民の皆様の不安は理解できますが、有効な手段がなかなかないのが現状です。市議会では、令和5年12月、令和6年3月、6月定例会で一般質問として議員が取り上げ、対策を強く求めました。

○ 他の河川では検出されていないか。

➡ 京都府の水質測定計画に基づき、年に1回、環境基準点において水質検査をしており、ほかの箇所では検出されていません。

◇ごみマナーについて

○ 回収してもらえなかったごみ袋について何が悪いのかわかりづらい。ごみ引き取り業者さんが紙を張られる時に、何が原因で回収できないかを書いて貰えば助かる。地域の方にも説明ができる。

○ 私の地域はごみ袋に番号を記入する。リサイクル推進員がごみを開けることは、市の規約の中にあるが、人のごみは見たくない、自分のごみも見られたくない。それをできるだけ回避する為に、番号や名前を書き、ごみを出した人に返すのが一番だと思う。

○ 番号がないごみについては、町外からの持ち込みもある。番号記入のないごみが多いなら、監視カメラや集積所を変えるなど、次の手段が打てるようになる。私の町区はそうやって対応していこうという動きが始まっている。

○ 市からは、綾部市民であれば自分の地区で必ずごみを出さなければならない、とはなっていないように聞く。そういう関係で通勤途中に町区外のごみステーションに入れられるというような場合があるのではないか。

➡ 基本的には、お住いの自治会内のごみステーションに出してもらおうことになっています。町区外からのごみ出しがあった場合は、市環境保全課にご連絡ください。

○ 自治会費を納めていないとごみステーションを使えないのではないか。

➡ 一律にそのように決まっているわけではありません。自治会によって対応は様々です。詳細は、該当する自治会にお問い合わせください。

◇子どもの医療費について

○ 今年から子どもの医療費が中学生まで200円になったが、高校生まで拡充して欲しい。

➡ 令和6年4月より、子どもの健康保持と子育て支援を図るための医療給付として、高校生等(18歳到達年度末まで)の入院について、1医療機関当たり1カ月200

円に拡充しています。

◇認知症予防について

- いかるひまわりの会では保健推進課から委託を受けて認知症予防ゲームの出張ゲームリーダー講座を行っている。これは地域で大人も子どももいっしょになって認知症予防ゲームを行い、認知症のことを知り自然に受け入れてもらうことを目的としている。認知症のことを知ってもらうために幼稚園や小・中学校の子どもや先生にも説明に行っている。高齢者の増加が進むので、受診率を高めて、健康な高齢者を増やし、高齢者が社会を担っていくことが認知症になっても安心して暮らしていくことだと思う。こういったことを保健推進課や地域包括支援センターが同じ方向を向いて施策をしていくことが大切だと思う。
- 認知症予防ゲームが認知症発症の予防になり、自分が高齢者になったときや自分の両親への認識につながればよいと思う。
- 若い人が見守りをできるかどうかだが、自治会の中で話し合いができればよいと思う。

◇西部福祉施設について

- 西部地区に建設予定の小規模多機能福祉施設が、資材高騰で工事延期となった。地域福祉のためにも市議会でも頑張ってもらいたい。
- ➡ **施設整備の推進については、これまでから一般質問などで取り上げ、6月定例会でも取り上げました。当該法人は、令和3年度末の工事着工を目指しておりましたが、世界情勢などの影響により、建設資材が高騰することとなり、令和4年5月に施設整備を当分の間、延期することとされました。令和5年度には10年間の事業計画を策定し、施設整備に向けてより安定した法人経営に取り組んでおられるところです。綾部市としては「法人と十分な連携のもとで、適宜、整備方針を確認するとともに、具体的な施設整備の時期が明らかになった時には、施設整備が確実に行われるよう可能な支援を行いたい」とのことでした。市議会としても事業実施に向け、引き続き注視してまいります。**

◇森林整備について

- 綾部は森林が豊かだが、境界確定ができていない。林業は補助金が沢山あるのに、活かしきれていない。ITを使いながら山林の管理をすることで、地元が潤うような施策をすべきだと思う。
- 父親から山等を相続した。資産として使えるのか興味がある。綾部市は多くの山林があるので、活用して欲しい。
- 林業大学で施業プランナーを学んできた。補助金等もあるので、自治会全体で取り組んでいくようにしていけば、山の管理ができるのではないかな。

○ 地域の山林の管理組合も解散しており、地元は反対の方向へ進んでいるような気がする。

○ 市としてもモデルを作るべきではないか。

➡ **放置された人工林を、森林所有者に代わって市町村が森林整備を代行できる「森林経営管理制度」が平成31年4月より開始されました。この制度を活用し、綾部市では長期計画を策定し整備を進めています。上林地区で2か所のモデル地区を設定し、市が経営管理権を取得し森林所有者に代わり森林整備を実施しています。西部地区では、航空レーザ測量等による資源解析や境界明確化を実施し、順次所有者の同意を取得しつつ森林整備を進めていくこととしています。また、その他の地区でも林業事業体による森林整備と並行して取り組みを実施しています。**

経営管理制度と同時に「森林環境譲与税」が市町村に交付されており、譲与税を活用し、①森林経営管理制度の推進、②その他人工林の整備、③担い手支援、④公共建築物の木造化等を進めていく方針です。しかしながら、経営管理権の取得には、全所有者(相続権利者)の同意が必要であり、非常に多くの時間を要することから、綾部市では、森林所有者や団体等が主体となり森林整備を進めることができる新規事業「みんなで守る綾部の山林事業」を創設しています。事業実施には課題もあるが、議会としても様々な観点から質疑をしています。

◇アスベストについて

○ 2021年4月から施工業者は建物等の解体・改修を行う際には、すべての工事で事前にアスベストの有無を調査しなければならなくなった。綾部市の場合は、入札前に事前に調査して、アスベストの有無を判断して入札されるが、市は一部の調査により入札に出すので、工事中にアスベストが発見された場合、落札した業者の負担となりお金がかかることになる。綾部は小学校・保育園・幼稚園などアスベストがある可能性のある古い公共建築物が多い。飛散防止の対策を確実にするためには、見直さなければいけないと思う。議会で取り上げてほしい。

➡ **まず、現状を担当課に確認しました。入札前の市によるアスベストの含有調査については、経費や工期に大きな影響を与える可能性のある主な建材等についてのみ事前調査(書面調査、目視調査、分析調査)を実施しています。発注後に、施工業者による事前調査で、新たにアスベストの含有やみなし(アスベストが含有されているか不明だが、あるとみなして飛散防止措置等をする)により経費や工期が変更となった場合は、発注者として変更契約に適切に対応しています。法律による事前調査の義務づけは施工業者に対してであり、事前調査に係る費用は経費の中に含まれているため、発注者である市がすべての建材に対して事前調査を実施しても経費の掛かり増しとなってしまおうと考えるとの回答を得ました。議会としては、6月定例会本会議で議員の一般質問として取り上げ、市職員がアスベスト事前調査者の資格を取るなどして、より精度の高い発注前の調査が実施で**

きるよう対策を求めたところ、市としても精度の向上に取り組んでいきたいとの答弁がありました。

◇消防団について

- 消防団活動については人員が必要であるが、今後、入団者が増えることは困難。有事の際に対応できるよう団員減少を想定した対応が必要ではないか。
- ➡ **消防団員の確保が困難な状況については、市議会でも一般質問などで取り上げています。綾部市としても団員を増やすため、消防団応援の店、入団促進のPRや報酬改定、装備品の更新・機能向上、団員の負担軽減にも取り組んでいます。団員が少ない地域では、部分的な活動に取り組む機能別消防団員が組織されて活動している分団もあります。**

◇学校について

- 学校のトイレの洋式化はどこまで進んでいるのか。どれくらい整備が進んだのか。全国的にみたらどうか。
- ➡ **令和4年10月現在で44%(多目的トイレ含む)の洋式率です。令和6年度には、吉美小学校と東八田小学校のトイレ改修を予定しています。令和5年9月1日現在の全国の公立小・中学校の洋式化率は68.3%となっています。**
- 生理用品を学校のトイレに置いてほしい。
- ➡ **6月定例会において一般質問としても取り上げました。綾部市においても、小・中学校のトイレに生理用品を配置することについて、学校と連携し環境を整えていくと聞いています。**
- 不登校の子ども健康診断を丁寧にしてほしい。
- ➡ **健康診断実施日に欠席した場合、近隣の学校の実施日に受診することや学校医に保護者が連れて行くなど、保護者に健康診断を受診していただくように案内しています。**
- 小学校に和式トイレがあることを知らない保護者が多い。保育園では、和式トイレの使用を練習させることがあると聞いている。学校のトイレの状況をしっかりと周知することが大切である。
- 早いうちに各学校のトイレを洋式にしてもらいたい。

◇上下水道料金について

- 住んでいる豊里町は下水道が未整備で浄化槽である。将来的な下水道整備のスケジュールはどうなっているのか。臭いが気になる。
- ➡ **下水道については、集合処理である公共下水道と農業集落排水、個別処理の浄化槽(特定地域生活排水処理事業)に分けられており、豊里地域は基本的に浄化槽**

エリアとなっているため、今後も集合処理の予定はありません。浄化槽のサイズについては、延べ床面積と居住している人数により決まっており、適正な人数で使用していれば基本的に臭いは気にならないと聞いています。気になるようであれば下水道課にご相談下さい。

- 綾部は水道代が高いと思う。もっと安くなればよいと感じる。
- 福知山はごみ分別が大変面倒で、一方で綾部は水道代が高い。それぞれにメリット・デメリットがあると思う。それぞれの課題を単独の市で解決しなければならないものか。トップで話し合いできないものか。
- ➡ **京都府中・北部地域消防指令センターを設置し、消防指令業務を共同で運営しています。スケールメリットだけでは解決できないこともあります。上下水道やごみ処理の問題等も将来的には広域的な議論が必要ではないかと思えます。**

◇地域の課題について

- 桜が丘二丁目の公民館の窓ガラスは一枚が大きい。先日、子どもさんが割ってしまい、修繕に一枚10万円かかり自治会が負担した。下の方が割れるので、大きなガラスを上下など分割すると修繕費が安く済むと思う。
- ➡ **市の担当課に確認したところ、地元の皆さん立会いの上で現場を確認し、窓ガラスが割れないよう対策を講じていきたいとのこと。**
- 民生委員の行事でサロンを開催しているが、会場(ふれあいセンター)が2階で、階段が上がる方のみが対象となり、制約がかかる。独居で身動きが取りにくい方の交流が活動の目標になっているのに、その対象の方が呼べない。自治会からもエレベーター設置をお願いしている。
- 自治会やいろいろな団体の担い手不足の問題が大きい。人口減少が大きな原因だと思うが、若い人の勤務体制の変化、自営業者の減少も大きな問題だと思う。自治会やいろいろな団体の活動に、働いている方でも参加できるような環境、システムがあると良いと思う。